



# 私のひとりごと

## 「奇跡の発見」

先日、北海道で7才の男の子が行方不明になり、不明から7日目で発見されたニュースはご存知の通りで、本当に良かったと日本中の多くの方が安堵したことと思う。私も毎日ニュースで確認し、家内に、帰る度に「まだ今日も発見されるのか？」と聞いていた。家内は「そんなに心配やったら、探しに行ったら？」と言う程であった。私がそれほど気に掛かったのは、私もよく似た経験をしていたからである。と言っても私の場合はその日の内に発見されたのだが…。



【くれぐれも、夢中になり過ぎて子供達から目を離されませんよう】

当時、7才くらいと記憶するが、ある時、父親にアマゴやヤマメ釣りに川へ連れて行ってもらったことがあった。釣り好きの方ならお分かりだと思うが、アマゴやヤマメは人があまり踏み込まない、山深い所まで入らないとたくさん釣れないのである。なので、幼い私は、道なき道を必死の思いで行った。山深くなるといくつもの谷川があり、谷を間違えると大人でも迷子になってしまう。父親が釣りはじめると、最初は側にいたが、そのうち退屈になりウロウロと歩き回ったように思う。そして、ふと気がつく父親の姿が見えなくなっていた…。私は、不安でジャバジャバと川の中を歩いたり、背丈以上もある草ぼうぼうの道を歩いたり、探し回ったが見つからずとうとう迷子になってしまった。あの時の不安だった気持ちは今も忘れない…。随分と長い時間、さ迷っていた様にも思うが、そのうち疲れ果て川原の石の上にしゃがみ込んでいた。と、そんな時、「アッ！子供が居るぞ！」と大きな声に顔を上げると、川に掛かる丸太橋の上に大きなリュックを背負った4～5人のおじさん達がいた。すぐに駆け寄って下さり、優しい言葉や食べ物を貰った事を覚えている。そうこうしている内に、顔色を変え、川を走るように下ってきた父親とめぐり合い、私の迷子騒動は一件落着となった。

これだけの話であれば、単なる迷子騒動なのだが、実を言うと、私の父親は子供のころ高熱が元で耳が聞こえない、声が出ないという障害があった。いわゆる二重苦で父親との会話はアイコンタクトと手話であった。健常者の方は、大変だろうなあ～と思われるかも知れないが、私にとっては（たぶん父親も）それが普通で、一度も不便とも不自由とも感じた事はない。ただ山の中での迷子となれば、叫ぶことも出来ず、音も聞こえず、目だけが頼りの搜索は夜になれば絶望的だったと思われる。なので、私は今でも奇跡的に助かったと思っている…。

私には3人の孫がいる。可愛いが危なっかしくて、1時間程見ているのが限界である。そんな孫たちの様子を見る度、孫に限らず私たちも一秒一秒、奇跡の積み重ねによって生かされていることが身にしみてくる…。

ではまた来月もお会いしましょう。  
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう  
ございました!!

